

旅ならぬ身も假初の世成けりうきもつらきもよしや吉岡下白山といひて、本の白山の麓に、劍といへる所侍り、そのかみ劍飛來しより、此名を残しけるとなん、

しら山の雪のうなる氷こそ麓の里のつるぎ成けれ

○白山ノ事ハ、火山條及ビ神祇部白山畔神社篇ニ在リ、參看スベシ、

〔伊呂波字類抄太地儀〕諸寺立山大菩薩顯給本緣起、越申守佐伯有若之宿禰、仲春之比、爲鷲獵然間笑立乍登於高山、笑立熊金色阿彌陀如來也、體巖石之山、膝名三鑿、腰號三鑿、肩宇三鑿、頸名四鑿申頭烏瑟五舉時有若發善提心切弓切髮成沙彌法號慈興、其師葉勢聖人自大河南者藥契之建高禪寺又上巖山之頂禪光寺千柿也、下岩奇嶽寺今泉也、鷲巖殿溫岐蓮臺聖人建立者自天河北三所上葦嶺寺根本中宮、横安樂寺又人建立件寺一王子真高權現依之康和元年造草堂中宮坐主永源與所司等德滿聖人相語建立烏瑟之峯坤方一有隈見顯現八大地獄總一百三十六義句、

〔書言字考節用集一乾坤〕立山川郡新

〔倭訓栞中編十三〕たてやま人を禁じて草木を伐採ざるの山をいへり、西土に封綿上山といへる是也といへり、越中に立山あり、同意なるにや、神は大寶三年に出現すといふ、一ノ宮也、萬葉集には、たちやまとみゆ、麓より本社まで十三里許、山中に一里ほどの湖あり、

〔諸州奇跡談下〕越中國

同國立山社僧數ヶ所有、婦堂五間四面、西向也、此堂に加州より米五斗入百俵、年々寄附あると云、前に天の浮橋有、長サ二十五間、横二間餘、同所に大なる杉の名木あり、十三尋廻りと云、珍敷大木なり、浮橋に歌有り、

浪たかく渡る瀬もなし船もなし昨日もけふも人はこへつ、詠人玄らず、案内の者語にまかせて爰に記す、此所より立山本社權現まで、大難處九里八丁ありといへども、十三里程有、玄たり各此邊の木の根にとり付、やうく行處數ヶ所あり、其外所によりて腰だけ川に入渡る處所々にあり、又正明川と云に、長サ二十八間の藤の釣橋有、諸國より參詣の者、十人のうち八九人は此